

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1173100304
法人名	有限会社ヘルパーステーション
事業所名	あにもの森 有限会社ヘルパーステーション
所在地	〒360-0101 埼玉県熊谷市野原135番地6 (電話) 048-539-1780

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月30日

【情報提供票より】(平成20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	18 人	常勤 10人, 非常勤 8人, 常勤換算 8.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 700 円
	夕食	700 円	おやつ 0 円
または1日当たり1,700円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月30日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳岡整形外科・内科、佐々木歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、自然が豊かな環境に囲まれた広々としたログハウス風の建物である。管理棟と広いダイニングを中心に四方に手を伸ばすような造りの居室が立ち並び、自由さを表している。ふんだんに木をしつらえた建物内部も周囲の森に調和し、利用者と職員が快適に過ごせるような配慮を表現している。グループホームと短期入所生活介護施設のサービスが区別なく提供され、いずれの利用者も広い空間を共有し、職員のケアサービスも分け隔てなく提供されているホームである。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回行われた評価の改善課題に対し、時間的に十分取り組む余裕がなかったが、改善に向けて管理者と職員が定例会で話し合い現在進行形で進めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価に続き自己評価については管理者が中心となって評価、取り組みへの方向性を示しているが、毎月の定例会の中で職員とも十分話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定例会には協定医療機関の医師も参加し、経営者や職員が毎回意見交換することで質の向上に向けて努力している。外部の意見を取り入れるために運営推進会議の開催に向けて準備中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月1回以上の訪問時に家族と職員間で話し合う機会を設けており、その時に意見等を聞き取るようにしている。苦情受付箱の設置はないが、家族が意見を述べやすいように工夫している。また、意見は定例会に取り上げられるだけ実現できるように話し合っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームと同法人の隣接する有料老人ホームは周囲に集落がない地域であり地域との自然な付き合いはない。市内のボランティア訪問を受けたり、施設で行われるコンサート等のイベントに地域の方を招待して交流を図る努力をしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	他の事業開設当初の取り組みから得たことを新たにグループホームや短期入所サービスに活かし、理念を上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会やミーティングで、日々の取り組みに理念を活かせるよう話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが建つ地区には人家がまばらであり地域活動は実質難しいが、市の広域に対し、職員や知り合いを通じて呼びかけ、事業所の音楽コンサート等に来訪していただけるように独自の交流の努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の定例会には協力医も参加し、外部の意見も取り入れながらホームの問題の改善に向け話し合っている。外部評価に意見を求めるまでもなく、自己評価に重きをおき、運営者から職員までがホームの実情にあった質の向上に向け自主的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	開設2年半であるが、まだ運営推進会議は設置されていない。ホームで行う毎月の定例会には協力医等の参加もあり、外部からの意見収集に努力していることから、改めて運営推進会議開催の必要性を感じていないが、開催に向けた準備は行っている。		運営推進会議は幅広い立場の人が参加し、外部評価の結果に対する取り組みや改善経過のモニター役としての役割を担っている。事業所主体の定例会とはまた異なり、広い視点での意見交換の場として、今後出来るだけ早い時期に開催することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型以外のサービスも法人内にあり、市町村とは日ごろより相談等の行き来がある。ホームには市より3月に実地指導訪問があり、サービスの質の向上に向け話し合っている。		運営推進会議開催した折には市町村の参加を呼びかけるなど、サービス向上への取り組み状況を共有したり、課題を事業所のみで抱えず協力を求めながら解決を図っていくことの出来る関係作りを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書とともに利用者の健康状態や日常の様子を担当者より報告している。利用者の家族は毎月1回以上の面会があり、その際必ず相談員等と利用者の希望等について話し合っている。また、利用者に変化があった場合は随時電話等で連絡相談している。幸いにも開設後の離職はなく、将来そのようなことがあれば随時報告する。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月定例会で、職員との面接で得た家族等からの意見や不満等を発表し、職員全体で改善できるように話し合っている。意見箱の設置や家族会開設の取り組みはされていない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとの担当性にすることの弊害を考慮し、馴染みの職員が固定化しないように取り組んでいる。併設する短期入所サービスも含め、施設全体の勤務する職員がすべての利用者の状態を把握し適切なサービス提供が出来るよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は定例会にて毎月実施し全職員に研修の機会を確保しているほか、市内事業所を招いての勉強会も適宜開催し、外部の職員と話し合う機会も用意している。また、市内のヘルパー養成校と提携し実習生を受け入れることで、職員の成長と責任感の育成をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内外のグループホームへ管理者が訪問し情報交換をするほか、ホームが開催する勉強会に同業者も招いている。また、同法人併設サービスが市開催研修会等より得た情報を定例会にて伝達することで、幅広い情報や知識を得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>緊急時もあるが、利用開始前に見学や話し合いを行い納得の上入居していただいている。法人内の訪問介護利用者の中には、馴染みがあり安心して利用できることから申し込みされることもある。また、短期入所施設も併設しており、必要であれば短期入所を利用して、雰囲気馴染んでから入居することも可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム利用者は現在重度化してきており、日常生活への取り組みは困難になってきているが、園芸や料理についての知恵を職員が学びそれを活かし続けている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族と話し合い、その思いや意向を把握して、ホームでの生活の中で実現できるよう定例会等を通じて共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定例会や随時のカンファレンスで利用者、家族の意向を職員が代弁し、介護計画に反映するよう検討している。介護計画書は作成されているが、検討した会議内容が記録されていない。また、カンファレンスに利用者、家族が実際に参加し意見を述べる機会は準備されていない。</p>		<p>カンファレンスで検討した内容を記録することで、全職員が介護計画の意図を共通理解し実践に結びつけることを期待したい。また、利用者や家族と話し合いを重ねることで、利用者本位のより良い介護計画を作成することが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しをするほか、利用者の変化に応じて随時新たな計画を作り直している。定例会または随時のカンファレンスで利用者の心身の状態と、本人、家族の希望を取り入れて検討しているが、アセスメントシート等に利用者や家族の意向は記録されていない。</p>		<p>利用者のアセスメントに本人や家族の意向が記録され課題抽出へ反映することで介護計画を全職員が共有できる。情報収集の内容や介護計画作成のプロセス、課題等を明確にし見直しに活かすためにも記録に努めることを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内では訪問介護、居宅介護支援、福祉用具、短期入所も提供しており、ホーム入所については訪問介護の利用者からの申し込みもある。短期入所はホームと施設、職員が共有しており、必要時はその多機能性を十分発揮して、利用者の要望に応えることができる仕組みを持っている。また、通院の付き添いや入院中の見舞い、衣類交換等も家族に代わって行うなど、状況に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診に家族が対応できない場合は、職員が情報提供ファイルを持参し付き添うなど支援している。また、ホームの協力医との連携は密に行い、入院等について提携病院との調整も協力体制を作っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして終末期について全体で話し合い指針を作成し、利用開始前に看護師や管理者より本人、家族に説明し話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にすることを職員間で徹底している。また、個人情報の記録類は事務室等に管理保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、毎日を本人のペースで過ごせるように一人ひとりの希望を聞き取り、実現できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専門業者に委託されているため好みのメニューを取り入れることは難しいが、利用者の希望が多いメニューは行事等に特別食として取り入れている。また、農産物の差し入れがあると、テラスでお芋を焼いたりして楽しむこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木の香りを楽しめる大きな浴槽の浴室と、ゆっくり入浴を楽しめる個別浴の2種類の浴室が備えてあり、好みや心身の状態に応じて選択している。利用者は週2回入浴を予定されるほか、希望があればいつでも入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの利用者は重度化してきており以前できた役割や趣味活動も難しくなっている。利用者の状態に合わせて入浴時のタオル準備などをお願いし、可能な範囲で力を活かしながら役割をもてる生活になるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度化に伴ない日常的な散歩等は次第に難しくなっているが、能力に合わせて隣の有料老人ホームまで出かけたり広い敷地内を散策することができている。また、季節ごとに近くに花見や紅葉見物に出かけ楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はもちろん、玄関、テラスへのドアも日中は鍵をかけないことが当たり前のこととして職員間で受け止めている。その中で徘徊のある利用者には、危険がないように見守りや話し合いをして安心感を持っていただけるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て消防計画に沿いながら年2回の消防訓練を実施している。近隣との火災時等の協力体制は人家が少ない区域のため現実的ではないが、地域にある消防団に職員が所属しており今後の協力を期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスについては、主治医の指示がある場合は栄養士と相談しながら献立を作成している。水分摂取量も記録し、脱水とならないよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天窓から柔らかな日差しが差し込み、大きくテラスに開くガラスドアからは緑豊かな森を望むことができる。自然と融合した豊かな共有空間で、利用者はそれぞれお気に入りのテーブルを囲みゆったりと過ごしている。共有のトイレ等も毎日清掃され清潔感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の床や壁等は自然木で作られ高床窓から森を望むことができる。個室にはそれぞれの好みの整理箱や写真や絵を飾っている。各居室へ通じる廊下は広く、利用者や職員等が往来するときも十分プライバシーが保たれ、清潔感にあふれている。		